

こみこみこみ通信

嚥下機能検査



耳鼻咽喉科長 中西 清香

昨今、超高齢化社会となり、**誤嚥性肺炎**という言葉がマスコミで取り上げられる頻度も増え、関連する本がベストセラーになるなど注目が高まっています。

耳鼻咽喉科では、その**誤嚥性肺炎**の原因となる**嚥下機能**を評価しており、内視鏡を用いて検査を行っています。平成二十九年十月より当科に最新の内視鏡システムが導入され、極細の内視鏡で鮮明な画像での検査が行えるようになりました。検査ではまずそのままの状態の**のど**を観察します。重症の嚥下障害の方では、この時点で唾液が気管に入ってしまう様子がみられることがあります。次に、着色水（もしくは、とろみのついた着色水）を飲んでもらい、通過していく様子を観察します。声帯を越えて気管へ着色水が入っていく様子が確認されれば、誤嚥があると判定します。誤嚥が見された場合の対応については状況により様々ですが、入院の患者さんで改善の見込みがありそうならば、言語聴覚士にリハビリを依頼します。外来の患者さんであれば生活指導や嚥下訓練運動を紹介しています。

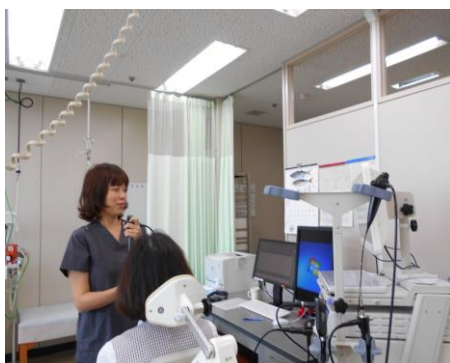
なんだかむせる、**のど**に何かひっかかるといった症状があれば一度耳鼻咽喉科での嚥下機能評価をおすすめいたします。

言語聴覚士とコミュニケーション

金沢市立病院 地域連携室通信

平成三十年二月 第十六号

発行 地域連携室



第十二回看護・趣味の作品展

平成二十九年十一月十四日から十一月十七日の四日間、一階待合ロビーにおいて、十二回目となる看護作品展を開催いたしました。今年のテーマは『とどけたい！私達のまごころ看護』でした。

院内各部署から十二点の看護作品の展覧がありました。平成二十七年年度の看護作品が「国際モダンホスピタルシヨウ二〇十六」にてグランプリに輝き、また、昨年度は、施設全体としての取り組みに対して授与される「ハッピーde賞」を受賞することが出来たことから、今年もより工夫を凝らした力作がそろいました。来場された方々からは、「患者さんの不自由な気持ちを一番に考えての作品がそろっている」、「身の回りのケアアイテムにとっても想像力が効いていて、その中にユーモアも入っていて素敵」等、心強い評価を頂きました。この企画そのものが、日ごろの看護の中での「ひらめき」や「気づき」を形に表す大切な機会であること、また、患者さんや来院された方に私たちの「看護の心」を伝える機会となっている事を改めて感じることができました。また、趣味の作品については、患者さん、地域の方々、ボランティアの方々から三十作品の出品があり展示させていただきました。「趣味の作品に癒された」との感想をたくさん頂き、患者さんも毎年楽しみにしているイベントであること嬉しく思います。



退院支援室移転のお知らせ

退院支援看護師の増員に伴い、昨年十二月より退院支援室が本館二階から別館二階に移転いたしました。退院支援室に御用の際は一度地域連携室にお声かけくださるようお願いいたします。ご不便おかけいたしますが今後ともよろしく願います。

お問い合わせ・ご予約などお気軽にご連絡ください。

金沢市立病院地域連携室

電話：二四五―二六二六

ファックス：二四五―二六九三